

調節池を上流側から望む。

(用水路 A 区=取水門 ~1.5Km まで。 B 区=1.5 ~ 3.2Km まで。 C 区=3.2 ~ 4.7Km まで。)





B区終点に近い3100m地点。臨時排水路で切断された形で、サイフォン建設後に開通。以下、上流までたどって変化を確認して下さい。





2700m地点の橋7。





1500m 地点の調節池Ⅱは、ほぼ 80%出来あがっている。





上流側から 1500m 地点周辺の強化堤防を望む。川辺の柳枝工は終了。シーシャムの移植準備が進んでいる。強化堤防周辺に約 1200 本、全体で約 4000 本を準備している。





A区主幹水路（約 1.5 km）は交通路整備と植樹を除いて完了。





調節池 I の現在。





A区上流部は完成形。柳の挿し木は4～6カ月、良く育っている。





B 1 岩盤から用水路下流を望む。





川の水量は急速に減ったが、堰の水位低下は僅かにとどまっている。堰前縁（越流線）は崩れていない。





斜め堰下流部。









僅かな変化が旧河道洲の位置に一致して見られる。同位置の堰体が僅かに沈み（推定 2～3 cm）、下流側堰体の下流園に沿って細い流れを形成している。洪水吐きとははっきり隔てられ、間に河道洲の発生が見られる。堰全体が平皿状に窪み、その中央に流れを作っているかのように見え、山田堰の中舟通しに似ている。砂質層が流れて巨礫層が沈下した可能性が強いが、大きなものではなく、観察を続ける。





洪水吐きの現在。位置は殆ど変化していない。堰下流端で深くなっている可能性はあるが、全体に大きな影響を与えることは考えられない。石張りが美しい。





水門前に見られる土砂堆積。砂利溜め付近（水門直前）から急に途切れるので、従来水路内に流入したものが、砂吐きで流されたと見られる。



土砂堆積